

## 事業所における自己評価結果

事業所名		ニコちゃん家		公表日		2026年 4月 1日	
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	16		1日の利用者数を多くならないようにスペースに合わせて調整している。利用者同士の関わりができるよう、移動が自由にできるようスペースが十分にあると思う。		
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	14	2	身体状態の急変などの対応ができるように規定より多くの職員を配置している	医療ケア度の高い子どもが多い中、特に看護師が少なくリスクが高いと感じる。またお昼休憩中など手薄になりやすいため、看護・ケアスタッフの養成を確実に実施していきたい。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	16					
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	16		毎日掃除、片付けを徹底しており過ごしやすい環境作りに努めている。	床が天然素材でアルコールや次亜塩素酸が使用できない。感染対策がとれない不安がある		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	16		個室が2部屋あり、必要時利用している。			
6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	16		月1回の全体MTG、通所MTGを実施しておりほぼ全員に周知している			
7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16		月1回のミーティング時に全体で共有し、改善へつなげるよう努力している			

業務改善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16		定期的に個別ミーティングを実施し、職員の意見を把握している。また、職員からの相談は随時受けており、業務改善へ取り組んでいる。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	6	第三者を特定してはいないが、来客者や普段から関わりを持っている事業者などから意見をもらうことはある	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	16		定期的に法人内での研修を実施。個々での研修にも参加している	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	16		HPに公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	16		保護者との面談日は設けていないが、必要に応じて聞き取りや面談を実施している	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	16		毎月行われている通所mtgで、職員間での共有、検討など実施している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	16			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15	1	標準化されたツールには当てはまらないが、「微細な反応」を評価する視点で記録や動画に残し、確認するようにしている	設定はされており、働きかけはしているが十分とはいえない。今後は「その子なりの適応」を証明するために、独自のチェックリストを作成していきたい

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	16			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	16			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	16		活動プログラム担当を決めて、計画実施している。様々なイベントやワクワクする遊びなど固定化しないように工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	16			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15	1	グループチャットなどで事前に情報を共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14	2		送迎や居宅支援に向かうスタッフもいるため、終了後の振り返りは十分とは言い難い。気付いた点は随時共有し、必要に応じグループ電話などを活用しながら振り返り、共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	16		記録は必ず共有し、改善へつなげている。	

	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	16			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	15	1		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	16		本人の微細なサインを意思として判断し、常に選べる環境（選択肢）を準備し、周囲の職員が代弁している。	自己決定を支援するうえで、人によって解釈がバラバラであるため、事務所内で個々に応じた「共通言語」の作成を件中である。
関係機関や保護者と	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	16			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	16			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	14	2	送迎は実施していないが、情報共有など、必要時学校と連絡している	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	14	2		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	14	2	実施できている。	

こ の 連 携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10	6	相互の情報共有はできており、必要に応じて助言をいただいている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	10	6	定期的には交流はないが、イベント時は地域の子どもの活動はある。	イベントは実施しているがこども同士の交流にはまだつながっていない。感染対策を考慮しつつ、交流していける方法を考えたい。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	11	5	代表が参加している	協議会は誰でも参加できるものではないため、お声がかかれば参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	1	送迎時や必要時、保護者と伝え合いは実施できている。 連絡表に記入し、伝えている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	14	2	私たちは常に「その子の専門家」は保護者であり、「教える」ではなく「共に発見する」というスタンスで関わっています。依頼があれば、研修や情報提供はしている。	
こ の 支 援	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	16			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	16			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	16			計画書を示して説明しているが、限られた時間内で行うことも多い。今後は、説明する時間をきちんと取っていくように努めたい。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	16		多くの方は居宅訪問を利用されており話しやすい介護スタッフへ悩み相談が行われる場面が多い。必要時、通所へ反映し一緒に考え支援を行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	16		保護者の会は設立していない。家族参加の行事を定期的を開催している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	16			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	16		ホームページ、LINE、インスタ等を活用している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	16			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	16			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	16			
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	16		各マニュアルは策定しており、訓練も適宜実施している。	研修で職員内での周知はできているが、保護者への周知は完全ではない。今後は定期的に周知していけるよう頑張ります。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	16		実施できています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	16			
49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	16				

非常時等の対応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	16		安全計画を作成し、支援を実施できている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	16			保護者への説明を十分に実施できなかったため、今後は文面で説明するなど工夫していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	16		些細なことでも、その都度、記録を挙げて共有し、毎月2回の職員mtgでは様々な意見を聞き検討し再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	16			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	16			